

開放鶏舎へのシステムケージ

東洋システム 納入実績が増加

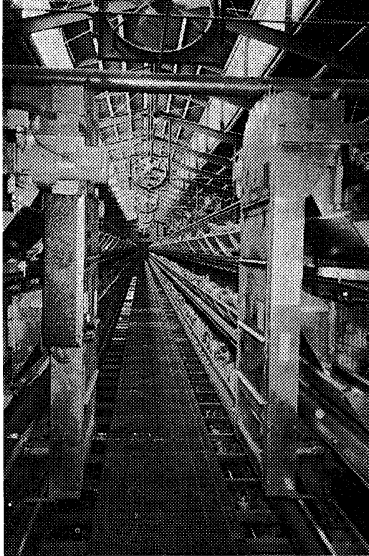
一ヶ所／年・羽120円／羽
 ・年の省エネメリットが採用されているほか、カーテンコントロールのコンピュータ化、二十四時間監視ハイテムファームコンピュータなど、ウインドレス鶏舎向けと同一レベルの最新技術が折り込まれている。

破卵率の極小化、鶏糞飼料内予備乾燥、二十四時間監視ファームコンピュータなどを、低卵価に勝ち抜くための農場設備のプランニング、供給に全力を挙げたいとしている。

東洋システム(株)(安田勝彦社長・本社・岐阜県各務原市金属団地九七(四))は、多様なシステム(羽を六棟、一棟一万三千羽)を、一昨年から実績が着実に増加、昨年十二月にはM農場(岡山県下)にウインドレス鶏舎を並んで、一年前からシステムケージの開放鶏舎への取り組みを開始していたが、第一号は一九九〇年の愛知中央養鶏農協向けハイテムサルメットベルトケージ4段×8列、一棟一万三千羽を納入した。

同鶏舎にはウインドレスを含め、養乾電気代の安定性と省エネ特性から実績が増加しているハイテムサルメットウインドレスシステム(養乾電気代がエアライブ方式の約半分。

同社では、ケージ列下に除糞ベルトを組み込むクリーンパックも含め、今後ともシステムケージ技術は、開放ウインドレス共通との考えの下



M農場(岡山県下)で稼働を始めたハイテムサルメット養乾ベルトケージ